

中等10回生3名、国際統計ポスターコンテストにて優勝

現4年生（中等10回生）の小川千遥さん、山本望実さん、脇阪紀恵さんが国際統計ポスターコンテストにて一等賞（1st prize）に輝きました。

このコンテストは、国際統計リテラシープロジェクト（ISLP）が実施するもので、3名はバスケットボールのBリーグを題材に”Correlation between Winning Percentage in Home Stadium and Environmental and Crowd Pressure（ホームスタジアムでの勝率と環境および観客数との相関）”のポスターを制作しました。

昨年度のSSH 全国生徒研究発表会の文部科学大臣賞受賞に続き、母校のKP(Kobe ポートインテリジェンスプロジェクト)が高く評価されるという嬉しいニュースとなりました。



一等賞に輝いた山本望実さん、小川千遥さん、脇阪紀恵さん（左から）

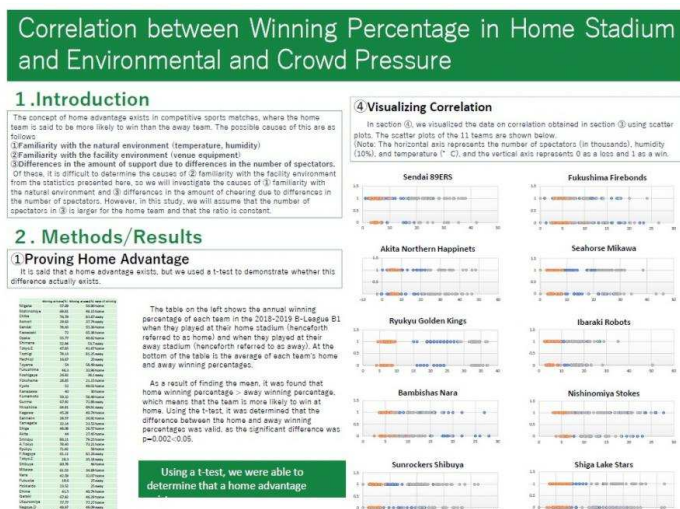
小川千遥さん、山本望実さん、脇阪紀恵さんの「受賞の言葉」

今回の研究の始まりは、興味本位で応募した「中高生・スポーツデータ解析コンペティション」でした。私たちはまず未知の「統計」を知るため、先輩や先生方の勉強会に参加しました。しかし、統計だけでなく、スポーツの知識もままならない私たちは調査する種目すらなかなか決まりませんでした。数週間考えたのちに行きついた研究の切り口が「気象とスポーツ」でした。これなら、種目の細かいルールを知らなくとも、研究できると思いつきました。そこからは怒涛の3週間でした。分析は夜に個人個人で行い、次の日に全員で確認。分析の際、勉強会で学んだExcelの機能や統計手法にかなり助けられました。また、分析のストーリーや統計的な根拠があるかどうかについて強く意識しました。望んだ結果が出ないことや、メンバーに負担を掛ける事もありましたが、3人で励まし合い、完成に至りました。完成作品をメールに添付し、先生に送信したあの瞬間の充足感はとても言葉では表し切れません。その数日後、先生から完成したポスターをもとに「ISLP International Poster Competition」の国内予選への参加の誘いを受けました。

学年末考査直前で時間的にたいへんでしたが、ポスターの内容を見直し、自分たちで英語版ポスターの原案を作り、英語科の先生の添削を受けたのち提出することができました。

私たちが今回の研究から学んだことは、3つあります。

1 つ目は苦手意識を持たないことの大切さ。データサイエンスと聞くと数学やコンピュータの難しい技術が必要そうに感じますが、決してそうではありませんでした。私たちの研究も相関という統計の基本を用いた研究でした。先入観を持たず興味を持ったことに挑戦してみ



受賞したポスターの一部

ることが大切だと感じました。

2 つ目は物事を多角的に見ることの大切さ。今回私たちはスポーツ統計のポスター作成に挑戦しましたが、研究の着眼点は気象でした。他とは異なる独創的な視点から考えることができたからこそ、納得のいく研究ができました。そしてこれらが実現できたのは、メンバーそれぞれが自分の意見をしっかりと言い合い、全員で検討を重ねたからです。

3 つ目は仲間の大切さ。同じチームのメンバーはもちろん、別のテーマ研究をしている同級生や先輩と切磋琢磨することができ、大きく成長できました。仲間がいなければ絶対に挫折していたと思います。

■卒業生だより

前原 一輝さん [中等3回生]

みなさんこんにちは！3代目の生徒会長を務めておりました、3回生の前原一輝です。今、私は防衛医科大学校という大学の5年生に在学中で、毎日病院実習に追われています。

実際に医療の現場に直面してみると、入学前では想像もつかなかった世界が広がっていました。途轍もない勤務時間。必ずしも「治りたい」という意思を持つわけではない患者さんがいること。コロナにより逼迫する医療体制。日本の医療が世界に後れを取っていること。しかしそれでも、医師となり人を救いたいという気持ちは変わりません。入学してからの5年という年月も、今思えばあっという間でしたが、いろんな面で成長させていただいたのだと改めて思います。そして、中等時代に掲げていた「グローバルキャリア人」なるものがいかに素晴らしく、しかしどれだけ手ごわいものかを痛感させられます。そう思うと、中等の環境のありがたみが身に沁みますね。私のような変人を受け入れてくれた同級生や先輩・後輩の方々にも、教師として科目を教える以上のすさまじい情熱を持って私たちに接して下さった先生方にも、感謝の気持ちしかありません。本当にありがとうございました。

さて、この2年間、コロナで思うような学生生活が送れなかった人、仕事の環境が大きく変わった人、いろんな人がいると思います。私も「人生最後の夏休み」と称される医学部5年のほとんどがStay Homeで終わりそうです（笑）しかしその中でも何かできないかと、筋トレや釣り、絵を描くなど、いろんなことに挑戦しています。とくに筋トレは、学生時代に始めて良かったなと実感しています。今家で暇を持て余している人にオススメです。

ワクチン接種が進んできてなお、コロナの流行に収束の兆しは見えませんが、極論いつかは大多数が罹って収束するはずです。いつかまた、みなさんと同窓会で再会し、お酒を飲める日を楽しみにしています。



Kazuki Maehara

中等3回生。生徒会長として学校行事の企画・運営に尽力した。また、卓球部にも所属。現在は医学部5年生。

学校NEWS短信

第9回兎原祭が開催される

6月25日に第9回兎原祭が開催されました。コロナ禍での開催のため食販をなくす等、制限付きの文化祭となりました。しかし、実行委員が工夫し、学年ごとではなく縦割りのチームで、催し部門、パフォーマンス部門、映像部門、展示部門での企画が実施されました。

卒業研究優秀者発表会が実施される

7月15日に六甲台講堂(神戸大学)にて、2021年度卒業研究優秀発表会が開かれました。発表会はZOOM Webinarでの中継も実施されました。6年生8名が『n段のだるま落としの成功条件』や『近代における日本人の対中国認識 —「支那通」にみる中国国民性の本質的理解—』などの内容で発表しました。当日の様子は、公式YouTubeチャンネルにアップロードされています。

西出 陽菜さん [中等6年生]

こんにちは、お久しぶりです！

太陽によって反射された十字池は今日も眩しいですか？教室から感じる風はいつもの神戸の匂いがしていますか？ドラムスティックを握り、音楽室から見上げた空や樹木はまだ碧いまですか？何もかもが煌めいて見えた学校から見える景色はそのままですか？

たくさんの思い出と共に私を成長させてくれたお友達、一人一人に向き合って個性や夢を認めてくださった先生方、視野が広がった勉強、好きなことを好きであり続けることの大切さを学んだKP、周りの大切さに気付かされた行事…。このような中等での毎日がいつの間にか私のエネルギーになっていました。

私は、小学生でミュージシャンになる夢を持ち、中学1年生から「夢叶えるために東京に行くんだ！」と決めて、とにかくがむしゃらに中等で夢を追いかけてきました。「中等卒業して東京に行ったらなんとかなるでしょう」と…。あの頃大学生なんて果てしない未来でした。しかし、正直、上京したところで夢はまだ掴めていません。順風満帆ではありません。夢が熱くなればなるほど厳しい現実に出会い、憧れや夢に手を伸ばせず掴めていない自分自身に葛藤しています。中等の時のように夢を応援してくれる環境とは異なり、現実を意識し、むしろ厳しい環境になりました。そりゃ夢を笑われることもあります。楽しいだけの演奏では認められない年齢にもなりました。

でも、現実を見たり、批判されるからこそ、自分に向き合う時間ができて、今まで出逢ってきた人、思い出、環境に“感謝”というものが強く生まれてきました。私の場合、中等で出逢ったお友達や先生、環境に恵まれすぎて感謝の気持ちが濃い分、厳しいかもしれない笑われるような夢を未だに追いかけることができます。改めてありがとうございます。

最後に、持続していくことは変化していくことだと思っています。当たり前が当たり前でなくなっている世の中で日常を持続していく、そして自分自身も中等から変わる環境で日常を持続する、さらに夢を持ち続ける中でたくさんの“変化”に出会おうと思います。これからいろんなものが変わっても心が帰れる場所であってください。

#お気に入りの場所

非常階段踊場

@3F



中等6年の時は、ほぼ毎朝ここに“神戸の風”を感じに行っていました。登校してきたお友達に「おはよう！」と手を振ったり、同じ時間に通る車・バスを何気なく見て時間を感じたり、英語のスピーチや小テストを一緒に覚えたり、「今日は空がいつもより青いね」と背伸びしたり…。ここで自然の力を借りて朝から爽快な気分になり、私なりの「日常」をこの場所で体感して気持ちのよい1日のスタートを切っていました。



Hina Nishide

中等6年生。在学中は吹奏楽部に所属、KP研究を情報処理学会全国大会で発表。音楽活動として打楽器世界大会や福山雅治公式コンテストで優勝、TV・ラジオ・ステージ出演など。卒業後は『Bill&Ted 3』（'20）カメオ出演。



♪応援よろしくお願ひいたします！♪

■先生だより

中垣 篤志先生

卒業生の皆さんこんにちは。お元気にされているでしょうか。

私がこの学校に赴任したのは平成 23 年度で、今からちょうど 10 年前でした。旧校舎で、附属住吉中学校の色が濃く残っており、次の年から後期課程ができるという（前期課程生しかいない）年でした。通常業務をこなしながら「高校をつくっていく」当時は、普通ではないようなあらゆる仕事が降ってきて、嵐のような毎日を過ごしていたのを覚えています。

当時この附属学校再編計画に関わった方々は、みなさんその完成年度である「平成 32 年度」を見据えて働いていました。私には、それはあまりにも遠い話で、想像さえできなかったのが正直なところでした。その後、卒業生の皆さんと（これまた嵐のような？）充実した日々を過ごすことができました。そして実際には「令和 2 年度」となりましたが、7 期生の皆さんの卒業はこの学校の節目となりました。たくさんの方々が夢見てきたこの学校の姿を見ることができ、本当に幸運だと思っています。感謝です。

さて、気がつけば私自身 10 年間もこの学校にいるわけですが、不思議とそんなに長くいるような気がしていません。おそらく毎年この学校が変化しているからだと思います。赴任した頃から考えると、全く別の学校です。昨年度からは SSH 校にも指定されました。きっと卒業生の皆さんが久しぶりに学校生活の風景を見たら驚くでしょうね。

ただ、皆さんが築いてくれた「附属らしさ」は健在です。日々変化していく若くて勢いのある学校ですが、変わらない根幹の部分があり、それが少しずつ文化、伝統となってきたように思えます。

この学校の過渡期はまだまだ終わらず、進化の途中にいます。卒業生の皆さんが出身校を口にした時、「名門ですね」と言われる学校になっていければと思います。皆さんそれぞれのステージで活躍し、いつかまたそんな母校に帰ってきてくださいね。

～同窓会からのお知らせ～

■ 本広報誌に関するお問い合わせ：「あの先生/先輩の話を聴きたい」、「こんなトピックを取り上げて欲しい」などの要望や、本号を読んだ感想を下記のフォームにて受け付けます。どしどしご投稿ください。

【編集後記】

広報誌第 2 号、お楽しみいただけたでしょうか。陽菊が附属での生活を思い出すきっかけとなれば幸いです。

お忙しい中、原稿を引き受けてくださった中垣先生、卒業生の皆様、ありがとうございました。皆様からの寄稿も大歓迎ですので、お気軽に応募フォームより投稿してみてください。

季節の変わり目ですので、体調など崩されぬようご自愛くださいませ。では次号でお会いしましょう！（3 年生惣田）

（次号は 12 月 31 日発行予定です。）



Atsushi Nakagaki

2011 年 4 月に本校に着任。
中等 1、2、4、5 回生のクラスを担任し、現在は 11 回生の学年主任を務める。

お問い合わせフォーム

■ 同窓会の活動に関して



<https://forms.gle/JyN9kAfL51EN4boi7>

■ 広報紙に関して



https://forms.gle/P_RyVcpmkeqy4ALDy5